

令和6年度 第2回 京丹波町子ども・子育て審議会 議事概要

日時：令和6年7月18日（木） 午後1時30分～午後3時45分

場所：京丹波町役場1階 防災会議室

出席委員：16名

欠席委員：2名

1 開会あいさつ

会 長：委員の皆様にはお忙しい中集まっておいただき、感謝している。また、お母様方にとっては明日が終業式ということで、お子さんの大事な時期にもかかわらずお越しいただいて大変ありがたく思う。長い夏休みは子どもにとってとても楽しみなものだが、我々も地域やそれぞれの立場で子どもの見守りや育みができたらと思っているので、ご協力をよろしくお願ひしたい。

私は、審議会に参加して委員の皆様の顔を見て、声を聞くと安心する。意見を聞くと感銘を受けてまた頑張ろうという気持ちになる。審議会がコミュニティを作る場として、私にとっても有益な場になっている。

私事だが、明日3歳の誕生日を迎える孫がおり、生まれるときにその子の姉を預かって育てたことがあった。慣れない私たち祖父母ではなかなか思うように子育てが進まず、疲れて行き詰まりを感じ、丁寧に孫に関われなかったのではないかとと思っているが、そんな時に近くの公園に行くとこども園の皆さんが園外保育にいられていて、先生方は孫にも園児と同じように接してくださり、子どもたちも孫と手をつないで遊んでくれた光景が今でも目に焼き付いている。そのような経験をしたので、子育てのことで何かお手伝いや恩返しをしたいと思い、子育てをしているお母さんに協力やサポートできることはないかと、審議会の役などをお受けしたりしている。

この審議会では、今困っている方々に支援の手が届けられるような審議がなされたり、第3期子ども・子育て支援事業計画にも盛り込まれることを期待している。本日は第3期計画の骨子案や事業案を少しずつ固めていく場にしたいと思う。何よりも基本理念や基本目標にみんなに分かりやすいキャッチフレーズや親しみやすいキーワードを今日のグループワークで忌憚なく出していただき、いい計画が出来上がることを祈念している。

梅雨が明けると夏がやってくる。子どもたちを見守る大人も元気でやる気をもって頑張っていきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。委員の皆さんもご自愛いただき、心身ともに健康で元気に乗り越えていきたいと思う。

2 審議事項

(1) 第3期子ども・子育て支援事業計画の骨子案について

【事務局による説明】

(2) 第3期子ども・子育て支援事業計画に盛り込む事業案について

【事務局による説明】

【質疑応答】

副会長: 今回の資料は事業を検討するシートということで、事業内容を取りまとめるための「案の案の案」のようなものであると認識している。今後、修正や京丹波町の現状・状況を踏まえた内容となっていくのだろうと思うが、今時点で気になる部分を確認させていただければと思う。

「道德教育・人権教育の推進」に関して、「道德の教科化」という表現があり、3期計画でも変更なしとなっているが、すでに道德は教科に位置づけられるようになったので、表現の修正を行ったほうがいいのではないかなと思う。

学校の取組みについて、「郷土愛を育む農林業体験教室の開催」や「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入による「地域とともに歩む学校」づくりの推進と導入校の拡充」では、「例えば」という形で学校名を挙げている事業がいくつかあり、3期計画に向けては変更なしとなっている。しかし、学校の取組みはこの5年間でずいぶん進み、食育や学校運営協議会などは他の学校でもたくさんの取組みを進めていただいているので、「例えば～」はなくてもいいと思う。特定の学校だけが取り組んでいるように読まれないようにする工夫をお願いしたい。

形として変更がない事業についても、5年間経っているので細かいところを各部署と調整して、どこまで進んでいるのか、どのように表記すればいいのかを検討いただきたい。これまで頑張ってきたこども園や学校も、冊子を見てまた頑張って取り組んでいこうという気持ちになれるような表現を検討してほしい。

事務局: ご意見を踏まえて、修正や調整を進めていく。

委員: 「不登園児」という表現があるが、これは何を指す言葉か。学校でいう不登校児のような、園に通いたくない子を意味しているのか。それとも「未就園児」を指す言葉か。

事務局: 「未就園児」の意味として表記している。こども園に通っていないか、健診への参加がない子どもや保護者へのフォローの充実に関する部分として記載している。

委員: その意味であれば「未就園児」の方が言葉として一般的かなと思う。

委員: こども園に通う年齢に達していないから未就園児なのか、保護者が登園させる意思がないのか、意味合いが変わってくるので、何を指しているのかを明確にする必要があると思う。

事務局：言葉の意味や伝わり方も含めて、検討・調整を再度させていただく。

委員：この事業案について、今回の審議会の後も委員の皆さんで議論する場はあるのか教えてほしい。今後気づいたことがあった際は、どのようにしたらいいか。

「産後ケア事業の実施」について、第2期計画と第3期計画の事業内容を見比べると、第3期の方が文章が減ったので事業が後退してしまったのかと思い、詳しく見てみると「対象者を支援を必要とするすべての者に拡大し」と書いてある。事業としては手厚くなっていると感じたが、認識としては間違いないか。

「園外保育、保育体験実習の実施」に関して、第2期計画では「地元の高校」となっている部分が、第3期では「地元の学校」と変更されている。変更した意図について教えてもらいたい。また「保育ボランティア」という表現について、ボランティアは重要だと思うが、小学生や中学生を受け入れる意図についても教えてもらいたい。

事務局：最初のご質問について、本日の会議内容などを踏まえて、次回の審議会でも素案という形で事業内容を確認・検討いただくことを予定している。

2点目の「産後ケア」について、ご認識の通り、対象者を支援を必要とするすべての者に拡大して、事業の充実を図っていきたいと考えている。

また、3点目に関しては、中学校で職業体験を実施しているが、その就業体験先の1つに認定こども園があり、ライフデザイン教育の一環として取組みを行っていることから「高校」を「学校」に変更する検討を行った。ご指摘を踏まえ、事業内容との整合も含めて改めて精査し、「ボランティア」の表記など内容について検討をしたいと思う。

委員：今後の審議の場においても、事業に対する意見はしてもいいのか。出来る出来ないは別として、要望を伝えることは可能か。

事務局：その場でもご意見はいただきたいと思っている。意見を踏まえて、改めて調整していきたいと考えている。

委員：新規事業の「子育てにやさしい施設の整備」に関して、このような施設整備は重要な視点であり、必要性がある事業だと思う。それに関連して、瑞穂にある山村開発センターにはエレベーターがない。第二次避難所に指定されているので、大規模災害などが発生した場合は子育てだけでなく障害のある方にも2階の和室などの各部屋を利用してもらう必要があると感じている。ベビーカーでの移動にはエレベーターが必要だと思うが、そういった公共施設の整備についても、取組みが推進していくと期待してよいのか。

事務局：町として財源面のことはあるが、各公共施設の更新や建替えの際は子育てにやさしい施設整備を念頭に置いて整備をしていくということで考えていただけたらと思う。必要に応じて予算化するということもあるが、基本的にはこのような考えのもとに設計をしていただくことになる。

委員：「環境教育の推進」に関して、従来から京丹波町では森林に関わる取組みを進めておられ、第3期計画でも「変更なし」となっている。私自身が野生動物を切り口にした環境教育をやってきたので、環境教育の内容が森林だけだと「森林は生態系の一部なのに」と思ってしまう。京丹波町の自然の豊かさは、森林だけでなくそこに息づく動物・昆虫といった生き物たちにもあるので、再度検討していただければありがたい。

事務局：ご意見を参考に検討を進めさせていただく。

会長：たくさんのご意見をいただいた。まだすべてのページを見きれていないというご意見もあったが、この事業内容について審議会で掘り下げるため、もう一度委員のみなさんにご意見をうかがう機会を作っていただくことはできないか。事務局のお考えをお聞かせいただきたい。今後5年間の事業内容になるので、意識の高い思いをもって参画していただいている審議会の委員の皆さんによって丁寧に仕上げていきたいと思う。

事務局：ご提案を受け、委員の皆さまが改めて事業内容を確認するための期間を設けたい。意見や質問があれば書面などでいただきたいと思うがいかがか。回答については担当課と協議し、調整を行ったうえで、第3回の会議に臨みたいと思う。

委員：次回の審議会の前に、委員の皆さんからはこのような質問が出て、事務局は回答をこのような形で準備しているということが分かれば、さらにレベルアップした審議が深まると思う。

事務局：承知した。その形で進めたいと思うが、他の委員の皆さまもよろしいか。

委員：(異議なし)

会長：ご対応いただきありがたい。これからどういったことに取り組んでいけるのか、何ができるか、皆さんと考えていきたいと思う。

3 グループワーク（テーマ：第3期計画の基本理念・目標について）

会長：第3期計画の基本的な理念や目標、皆さんの思いについて、忌憚なく意見を交わしてもらいたいと思う。計画を策定していく中で、特にソフトの面で我々に何ができるか、できることはないか考えていただきたい。

【事務局による説明】

【4グループでグループワーク（約50分）を実施。各グループが議論内容を発表】

※Dグループ⇒Bグループ⇒Cグループ⇒Aグループの順番で発表
(Dグループ)

最初に「生きる力を育む」という言葉が出た。「未来へ羽ばたける」子どもや「生きる力が強い、ハートの強い子どもを育てる教育」といったワードも挙がった。「自己肯定感」に関する話もあり、自己肯定感が低く、自信が持てない子どもたちが多いのではないかという意見もあった。

次に関わり合いの話題として、前回のグループワークでは「居場所づくりができていない、行くところがない、雨天の際に遊ぶところがない」という意見があったが「相談できる人が地域にいない」という意見も出た。今の時代は相談できる人が地域にいない方が多いとのことだった。たくさん話すような若い人が少なくなったのかもしれない。コミュニケーションの機会が減ってしまって、相談する先がない状況になってしまっているのかもしれない。

次に、「地域密着型の子どもが育ってない」という意見があった。子どもが「京丹波町にはこんないいところがある」と感じてたくさんの体験・経験をして育っていくこと、そしてそれが自分のものになって、自分が何をしたいのか見つけられるようになる場を大人たちが作っていかないといけないと思う。こんな風に社会に貢献したいと子どもが考えられるように、学校教育とは別に社会教育の中で我々ができるのは、やはり子どもと関わって自然や人などどんなことに関心を持つのか探してあげることではないか。

今は林業に興味のある大人が本当に減っている。経済効果がないことが理由の1つだと思うが、木の種類を知らない大人は多い。そんなことにならないように、我々が地域の中に子どもを引っ張り込んで、教えていけるようなことはたくさんあると思う。

最後に、少し言いづらいが、経済的なことの見解も出ていた。子育てにはお金がかかる。お金が工面できないから子どもを生むことを諦めるという方が多いとのこと、対応を考えていかないといけない部分もある。町の財政を考えると現実的には難しいとは思いますが、いくらかでも奨学金制度を作ってもらいたいなどをお願いしたい。須知高校の振興基金を募っているがなかなか参加者が少ない。地域の方が教育に関心をもっていただき、支援への参加者が集まる京丹波町になればと思う。

(Bグループ)

これまでの審議会が出た京丹波町の大きな課題として「経済面の不安」「健康面の不安」「地域のつながり」があることを共有し、出た意見についてグループ分けを行った。

経済面や健康面への支援など、町としてはたくさんの支援・施策を行っているが、これまでも話題になったように「必要な方にどう繋げていくのか」を考えることも必要という意見が出た。ホームページや、特に町のハンドブックなどはとても分かりやすくできているが、その情報を必要としている人が情報を取りに行こうとしているか、その人に情報が届くかどうか課題であると思う。どんな手段が一番届きやすいか話し合うと「口コミ」や「学校からの情報発信」という意見が多かった。SNSが発達した今の時代では逆にアナログな手段の方が伝

わりやすいのかもしれない。やはり人と人のつながりが信頼関係を生み、その信頼関係に基づいた手段だと、自分に必要な情報だとしっかり伝わるのではないかという話が出ていた。

それを活用するためには、例えば学校のPTA行事や総会、地域別懇談会といった保護者などの集まる場所で、子育てハンドブックの周知や取組みの広報などの情報発信をしていけばいいのではないかなと思う。またそういった場に役場の担当者自らが出向いて「こういう取組みをしています」と周知したり、また民生委員についても、どういったことを相談できるのか、何をされている方なのか、直接保護者に知ってもらえる機会があるといい。

京丹波町役場で、子育て日本一と言われている岡山県の奈義町に視察に行かれたと聞いた。奈義町の担当者が京丹波町の子育ての取組みを事前に調べたところ、奈義町で実施している取組みとほぼ変わらなかったと聞き、自信を持ったということだった。そうであれば、取組みをどう伝えていくかが課題になる。取組みをしっかり伝えていくことを計画に盛り込んだり、伝え方をキーワードとして落とし込んでいけるといいという話が最後に出ていた。

(Cグループ)

多かったのは「多様性」や「多文化」といったワード。多様性や多文化の視点が当たり前の社会になっているので、異年齢での触れ合いも含めた出会いや交流というのは学びのチャンスであり、新しいことに心を向けるチャンスでもあるという意見が挙がっていた。

今の時代、子どもたちは「お膳立て」される社会となっている。しかし、子どもにとって、ピンチを自分の力でクリアできるように挑戦させること、ピンチをチャンスにできる機会や、子どもも子育て中の親も自分の力で解決できるようになる場づくりも、キーワードとして挙がった。

自らの経験から、相談できる場を充実させることが重要だと感じたという意見もいただいた。そういった場を通じてお互いに理解し合うことを学び、色々な境遇の人がいるということを理解することの大切さを学んだとも話されていた。そういったことがキーワードにつながっていくといいと思う。

また、急用の際に子どもを預かってもらう場や、少し離れた地域で親戚や友人以外の人に話を聞いてもらえるような場もあるといいという意見もあった。

子ども・保護者・地域というこの視点は、それぞれ関わって密接に結びついているものなので、厳密に分けることは難しいと感じている。

また、今の社会は子ども中心、子ども優先、子どもは地域の宝という考え方が浸透して、国もこども家庭庁を設置している。子どもを大事に育てていくことも重要な視点であることは間違いない。しかし、子育てがひと段落した年代の方は

次に親のことを見ないといけなくなるので、そういった方のことも考えられる社会になればいいと思う。地域を支える側になったり、介護する側になったり、大事で大変な世代。親自身も豊かに生きられる視点も大事だと思う、という意見が最後に出て、心に残った。

(Aグループ)

地域が居場所になっていくので、子育て家庭を見守る地域の方々の大事さや、居場所づくりに関する話で盛り上がった。また、子どもたちの体験に関する意見もあった。他のグループから「生きる力」というキーワードが挙がっていたが、たくましさを育むためには体験が大事なのではないかという意見があった。体験というのは旅行のような大きなものではなく、住んでいるこの京丹波町で身近な体験をすることが大事なのではないかという意見があった。

ただ、色々な家庭があり、安心・安全の面から保護者も一緒に参加しないと子どもたちは体験に参加できない現状もある。子どもだけや、地域の大人にお世話になるなどの形で気軽に参加できる体験の場があるといい。グループのメンバーにも、体験活動をやりたいと思われている方がいらっしやった。子どもたちに体験させてあげたいとか、体験活動などに力を発揮したいと考えておられる方は地域にもたくさんいらっしやるのではないかと思う。そして、そのような思いを持っている方をどうつないでいくかという方法も考えていけたらと思う。

そうした体験をした子どもたちはたくましく育つだろうし、関わる地域の大人も一緒に元気になってもらい、地域の活性化にも繋げたいという思いから「子どもの声が聞こえるまち」がキーワードとして挙がった。子どもの声を聞くと元気が出るという方も多いので、子どもたちの笑顔や声が聞こえるようなまちづくりが基本になるといい。

現行計画の基本目標となっている「かかわり愛・かまい愛・つながり愛」はすごくいい言葉で、これを超えられるものはないのではないかという意見もあった。ただ、Bグループの発表でもあったが、多くの人に届けることが大事だし、知っていたらよかったと思っておられる方も多いと思うので、言葉を可視化し、発信する力が大事ではないかという意見も出ていた。

3期の計画では、どういった場で発信するとたくさんの人に届けることができるのか、子育て世代はもちろん、支えてくださる地域の方にも知ってもらうことでコミュニティが広がり、子どもたちを見守っていく環境が京丹波町にそろうと思う。少しでいいから力を貸したいとか、気軽に子どもと触れ合って体験を支えたいと考えておられる方をぜひ発掘してつなげていただきたい。人は人の中で育っていくと思うので、ハード面のお知らせだけでなく、人が声に出してつなげていくことも大事にできたらいいと思う。

会 長: たくさんの貴重な意見をうかがうことができた。第3期計画に反映できるように、委員の皆さんの言葉と意思を大切にしていきたいと思う。

4 事務連絡（次回予定）

【第3回審議会】日時：令和6年10月2日（水）午後1時30分～

場所：大会議室（本庁舎2階）

5 閉会あいさつ

副 会 長: 委員の皆さんには事前に配布いただいた第3期計画を細かいところまでしっかり読んできていただいた。皆さんがそれだけ自分のこととして、主体的に参加されていることを感じさせてもらった。グループワークでは4つのグループで自分の思いを一生懸命伝えておられる様子が伝わり、熱い思いや意見を交換することができたと思っている。

京丹波町はこども園や小中学校、社協やNPO法人、子育て団体など多くの機関の連携のもとで子育て支援事業が充実していると、Bグループでも話が出ていたが、私自身も事業案を読んでそう思っている。経済的支援についても1か月健診の費用の補助が第3期計画では拡充されている。小さいことかもしれないが町でも経済的支援をしようと考えていることが分かった。しかしながら、これも各グループで話題となったが、それを知らない方が多数いらっしゃることも事実かと思う。

先日、社協のファミリーサポートセンター事業の預かり会員向け講習会に参加した。講習会では子育てにかかわる基本的なことをたくさん教えていただけたので、まっさらな気持ちで聞くことができ、よい学びになった。一点気になったのが、Cグループで出ていたかと思うが、育児疲れや育児に関する不安があるときやちょっと休みたい（レスパイトの）ときなど、支援を受けたいときの預け先が分からないと感じておられる保護者が30%近くもいらっしゃるということだった。この場でも審議したアンケート結果をもとにした話題だったが、審議会ではあまり意識していなかった。何度もファミサポに預けるのは気が引けると感じたり、頼むと自分が楽をしているように思われないか気になるという意見も紹介された。預け先を知らなかったり、知っていても頻繁に預けるのは気になるという方がいらっしゃることを学んだ。

抱え込んだり、家族だけで孤立したり、またどこにも頼れないような家庭が京丹波町で起こらないように、みんなではぐくむ子育ての輪がすみずみまで浸透していくことを願いたい。審議会にはそれぞれ違う立場の方が集まってこれている。委員の皆さんもそれぞれの立場で子育て支援施策について伝えていただきたいと思うので、よろしく願いたい。